

## 各区だより

熱田区  
あつたコロナ禍の  
老人クラブ活動について

令和元年の秋に中国で発生した、新型コロナウイルス感染症。当初は対岸の火事としてとらえていたが、日本でも発生し、3月末に政府から緊急事態宣言が発出するに及び日本中がパニックのようになりました。世間を見回すと朝の通勤時間帯なのに電車はがら。ひどい時には一両に数人という時もありました。名古屋駅も人が少なく、タクシートの運転手の話では、コロナ患者が入院している病院の前を通るときは、息を止めて通過するという話も聞きました。

これも、得体の知れない感染症で治療法もまだ確立していない、予防のワクチンもまだ開発されていない状況ではやむを得ない反応ではないかと思えます。今思えば日本だけでなく世界中が異常な様子でした。その後ワクチンの開発と予防接種の実施、ウィズコロナの生活など、そして新型コロナ

の分類が今年5月以降2類から5類に変更になり日常生活に戻りつつあります。

この間老人クラブの行事は、令和2年度は、ほぼ中止。秋のウォーキング大会だけが、感染症対策をしっかりとって実施しました。令



和3年度は、前年に引き続き屋内の密になりそうな行事は中止、屋外または、密にならない、カローリング大会、秋のグランドゴルフ大会、秋のウォーキング大会は、感染症対策を実施して行いました。令和4年度は、全行事感染症対策、人数を制限して実施しました。今年度は、今のところ平常どおり実施しています。



このコロナ禍の中、クラブ会長さんには、大変な苦勞をされたと思います。特に初期の段階では、今まで借りていた、学校、区役所講堂、コミセンなど軒並み使用禁止となり、どこで行うのか困

られたと思います。特に高齢者は感染しやすく、重症化しやすいなど特有の特性を抱えていて、コロナが怖くて、外出もできない、人と会うこともできないなど、だんだんとフレイル状態におちいることにもなります。ただこういう時にこそ老人クラブ員、お互い電話などで連絡し合い、孤立にならないよう支え合い前向きに生きたいものです。

(熊澤 克則)

中川区  
なかがわ名古屋が生んだ世界の  
スポーツ、カローリング

4位を決定し、さらに総合優勝を決める決勝トーナメントへ進みます。ジェットローラをまっすぐに投げられない、距離が短かすぎたり、ゾーンをオーバーしてアウトになったりと、ジェットローラのコントロールが難しいのですが、参加者はまさに一挙手一投足に一喜一憂しながらも、ゲームを楽しみむ姿・歓声があちらこちらの対戦で見受けられました。

ところで、氷上のカーリングにヒントを得たカローリングが中川区発祥のスポーツであることをご紹介しようか。

新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類感染症に移行され、いろいろな行事や事業が実施しやすい雰囲気になったところです。



1993年(平成5年)6月頃に中川区の会社が自社部品をもとに考案し、今でも中川区に日本カローリング協会があります。

屋内スポーツのカローリングは天候に左右されず、学校の体育館やスポーツセンター競技場など広い開放感ある会場で行うため人気のあるニュースポーツ(※)で、市老連では高齢者と小学生などが一緒に楽しめる世代間交流スポーツとして改めて脚光を浴びていると思います。

中川区カローリング大会はA、E組の5組に分かれ、参加学区の3名1チーム、計20チームが抽選によるトーナメントで対戦し、各組優勝・準優勝と3位

※20世紀後半以降に考案・紹介されたスポーツ群のこと。カローリングとは、軽やかに回転するの組み合わせともいわれています。

(写真・祖父江 隆)

／文・加藤 嘉博)

中川区カローリング大会はA、E組の5組に分かれ、参加学区の3名1チーム、計20チームが抽選によるトーナメントで対戦し、各組優勝・準優勝と3位

※20世紀後半以降に考案・紹介されたスポーツ群のこと。カローリングとは、軽やかに回転するの組み合わせともいわれています。